

# 光星 14大会ぶり東北王者

第70回

春季東北  
高校野球

最終日

第70回春季東北地区高校野球大会は最終日の11日、盛岡市のきたきんボールパークで決勝を行い、本県第2代の八学光星が仙台育英(宮城第1代表)を3-2で破り、14大会ぶり2回目の頂点に立った。八学光星は1-1の8回、4番長谷が決勝点となる2点適時二塁打を放った。先発の洗平は8回%を2失点と好投、投打が噛み合い、昨夏の甲子園覇者との接戦を制した。興勢の優勝は2019年の弘前学院聖豊以来の大会ぶり(20、21年は中止)、通算11回目。(本田海輝、棟方好華)

## 8回勝ち越し 仙台育英振り切る

▽決勝(きたきんボールパーク)  
八学光星 0100 1000 0102 3  
仙台育英 0000 1000 0102 3  
(仙) 洗平、岡本、藤原、田嶋、田中、高橋、仁  
▽本塁打 砂由(八)▽二塁打 長谷(八)▽三塁打 長谷(八) 洗平、齋藤(仙) 齋藤(仙)

【評】八学光星が、かつて四つの接戦を制した。二回、洗平の右越え本塁打で1点を先制。四回に1点を返されたものの、八回一死、二塁から4番長谷が左中間を破る。適時二塁打を放ち、勝ち越しに成功した。安打数は互いに8本だったが、八学光星は得点機での勝勢が光った。  
先発の洗平は九回の死まで、糸谷の力投。二塁打を打たれた場面で主戦本谷がリリーフし、試合を締めた。野手陣も無失策で3併殺を奪い、5年生左腕の力を堅守で支えた。

夏につながるゲーム

八学光星・仲井宗基監督 選手たちが少ないチャンスをものしにできた。夏に、途端なカーブを連発したことが悔やまれる。打撃は、今持っている全部を出し切った。本塁にそのまなゲームにならなと思う。まだまだチーム内の競争もあつた。だが完成形はない。が、悪くない。アウトの質も、一塁セロからスタートし、隙のないチームに仕上げた。

配球が悔やまれる

仙台育英・須江航監督 (打たれた場面は)一番中をものにできなかった。夏に、途端なカーブを連発したことが悔やまれる。打撃は、今持っている全部を出し切った。本塁にそのまなゲームにならなと思う。まだまだチーム内の競争もあつた。だが完成形はない。が、悪くない。アウトの質も、一塁セロからスタートし、隙のないチームに仕上げた。



## 長谷 意地の決勝2点打

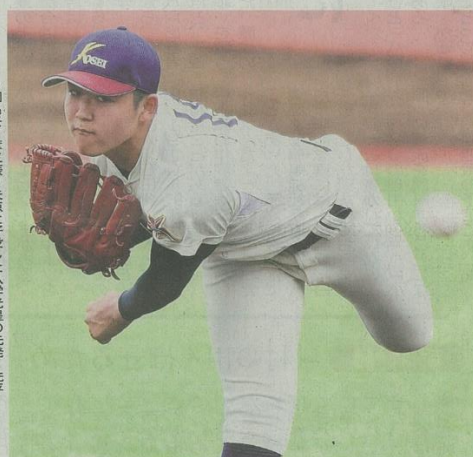
4番長谷の意地の一振りだが、チームに久々の栄冠をもたらした。八回、1-1の均等な強敵な打球を中間へ運ぶ。意地を生きて、甲子園優勝メンバーが多くなり、センバツでも8強入りの強敵を蹴散らす。二塁打となった。打のヒーローは「食らいついて、ランナーをどうにかさせた。自分分のスイングができた。満足している。」「悔しかったけど、その分気が

## 目の前で敬遠 燃えた主砲

光星の主砲としての執念の一打に、二塁上では感情が爆発。ベンチ、スタンドに向け「普段はあまりやらない」というカッポーズを見せた。仲井監督は「気持ちで打った一本だった。長谷にとっても大きな一打だったし、チームにとっても、こそこの気持ちの現本を示してくれた」とたたえた。現校名では初となる春の東北王者に「自分だけじゃなく、応援の力もあっての勝利」と長谷。2年連続の甲子園出場を狙う夏に向け「全員主役を頑張りたい」といふもは控えめな言葉に、最後は力



14大会ぶり2回目の優勝を喜ぶ八学光星チーム



8回%を2失点と好投した八学光星の先発・洗平

## 洗平 勝利呼ぶ力投

仙台育英とのロースコアの接戦となった決勝。八学光星の先発洗平は8安打を浴びたものの、ピンチの場面を三振や併殺で切り抜け、8回%を2失点、7奪三振と力投した。

この日の午前中に仲井監督から先発を言い渡され「準備は万全だった」。特に意識したという初回を完璧に封じ「3人で終われたのは大きかった」と自賛した。

直後の二回には打撃でも貢献。甘いスライダーを振り抜いた打球は風にも乗り、そのまま右翼席に飛び込んだ。「ホームランはたまに」としながらも、拳

9回途中2失点 要所締め7K

を突き上げながらホームイン。高校では初となる一発に笑顔ははじけた。

四回以降は毎回走者を背負いながらも最少失点にとどめ粘投。しかし最後の打者1人となった完投目前で、同じ2年生の主戦・岡本にマウンドを譲り「悔しい」と負けん気をのぞかせた。

今大会は強豪を相手に2試合で計11回%を投げ、2失点と結果を残した左腕。今後に向け「四球でランナーを出して失点する課題がある。夏までに仕上げたい」と成長を誓った。(棟方好華)